1908 〃	1,258.5 〃
1909 〃	887.1 〃
1910 〃	1,397.2 〃
1911 〃	1,191.5 〃
1912 〃	950.2 〃
1913 〃	1,018.9 〃

○耐震構造に關する調査要領

本年一月鹿兒島縣櫻島の噴火に際し震災豫防調査會にては委員及囑託員を派して其被害狀況を調査し且同縣知事の依頼に由り辰野、曾禰、石黑、中村、大森の五博士を特別委員として耐震構造に關する注意要領を定め之を同縣へ送附せしが其全文左の如し

耐震的構造に關する注意

本會は建築物構造改良に關し鹿兒島縣知事の依頼に由り曩に木造耐震家屋構造に關する本會報告第六號及別刷震後の家屋構造の注意竝に煙突危害豫防に關する報告第三號を送付し而して今回更に石造及木骨石造の構造方に就き注意書を送致せり其要領左の如し、

石造

一、石造建築物は軒高を二十四尺以上となさゝること

二、石造建築物にして壁厚七寸以内長手積のものは軒高を十二尺以上となさゝること但適當なる控壁を設くる場合は此限にあらず

三、軒高十二尺以上二十四尺以下の石造建築物にして適當なる控壁なきものは其壁厚を一尺二寸以上となし控取として長手及小口を適當に疊積すること

四、石塀は其高さに應し適當なる控壁を約二間毎に設くること

五、石造建築物には太枘、鎹、引鐵物の類を適當に用ふること

六、石造壁體の相會する所は適當に組合せ特に其堅牢を要するとき及組合せ不可能なる場合には「ボールト」、引鐵物の類を以て其接合部を補強すること

七、兩面に石材を疊積し內部に「コンクリート」を塡充するか若しくは割栗を「セメントモルタル」にて積み入るゝ厚き石塀は內部に適當なる控取積をなすこと

木骨石造

一、木骨石造の建築物は軒高を二十四尺以上となさゝること

二、木骨石造に於ける木部の構造は總て木造耐震家屋構造要領(震災豫防調査會報告第六號及滋賀岐阜兩縣下震後の家屋構造の注意明治四十二年十月十三日官報)に準ずること

三、木骨石造に於ける貼付壁の石厚は之を四寸以上七寸以下となすこと

四、木骨石造建築に於ける石材の貼付方は太枘、鎹の類を以て鄰石を連結し、「ボールト」、引鐵物の類を以て適當に之を木骨に緊結すること

防火壁

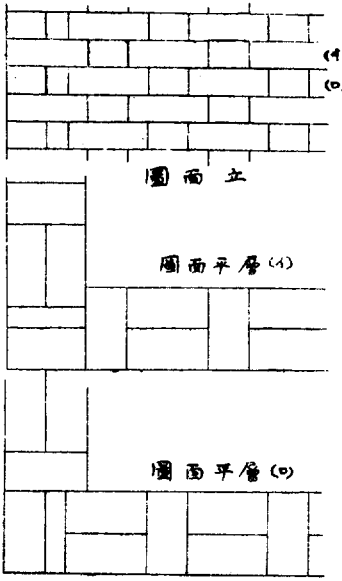
一、木造建築物の終端に設くる防火壁は木骨石造の貼付壁に準し又其中間に設くるものは石造の石壁に準して之を造ること

二、防火壁の屋上突出は屋根の傾斜面に直角に度りて之を一尺二寸以下となすこと

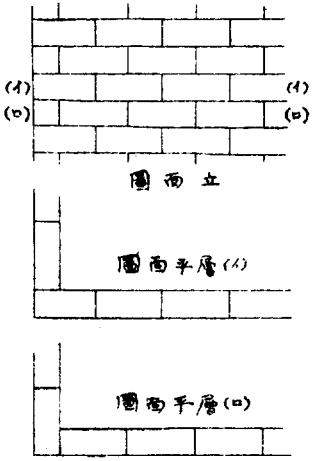
三、防火壁の笠石は成るへく壁面より其出を少なくすること

雜件

一、建築物の平面形か著しく長大なるか若しくは長腕のL字形U字形其他複雜なる形を有する場合には之を適當に區劃し一部分毎に其構造を獨立せしめ各別に振動せしむる樣なすこと

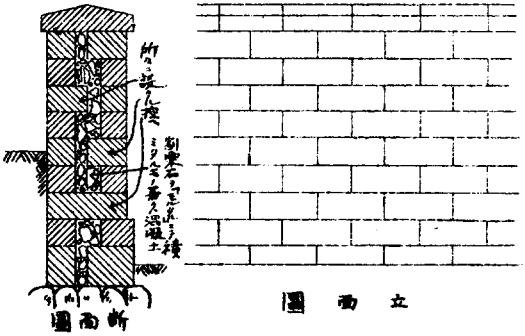


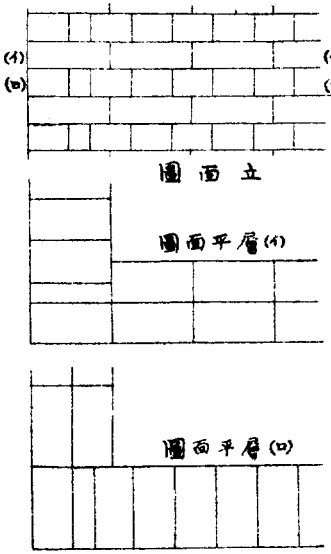
第二圖　長手ト小口トヲ交互ニ用ヰル一例(乙)



第一圖　長手積ノ例

第三圖

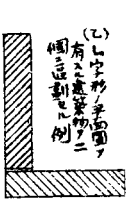




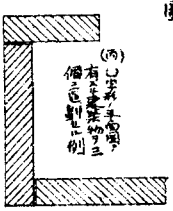
第二圖　長手トロトヲ交互ニ用フル一例(甲)

例ハセ割ニ(ロ)ノ場所ニ建ツル有ル圖面平ハ十大区(甲)

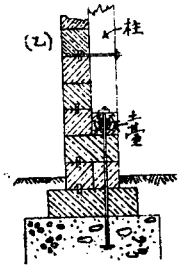
第四圖



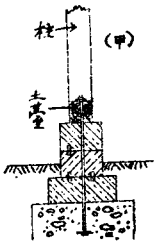
(乙)ハ字形ノ平面圖ヲ有スル建築物ヲ二個ニ区割セル例



(丙)ハ字形ノ平面圖ヲ有スル建築物ヲ三個ニ区割セル例



第五圖



二、石積は總て容積にて「セメント」一分、水化石灰二分、砂六分の「モルタル」若しくは之と同等以上の効力を有する「モルタル」を用ふること

三、軒蛇腹、胴蛇腹等の積出石は壁面よりの突出を成るべく少なくし且「ボールト」引鐵物の類を以て之を壁體若しくは木骨に強固に連結すること

四、石造切妻壁は成るへく之を造らさるを良しとす

五、木造若しくは木骨石造の建築物にして土臺下に要する石積は成るへく低くし其他は總て石造建築物の石壁に準して之を造り且「ボールト」、大太樹の類を用ひて土臺と強固に連結すること

六、石造(防火壁を含む)若しくは木骨石造にして軒高二十四尺以上のものを建築せんとするときは特に專門技師をして之を計畫せしむること

備考

一、火山灰は性質に由り「モルタル」及「コンクリート」に用ふべき材料なるを以て櫻島噴出火山灰の性質に關し調査手續中

二、本注意書記載の石材は磯石、小野石の如き脆弱なる石材を以て標準となしたり故に小頭石、加治木石の如き比較的優等なるものを使用する場合には「モルタル」も亦本書記載のものより優等なるものを用ふること

三、煉瓦造建物は鹿兒島市に於て用例極て少なし故に之に關する構造は之を略す

○電氣計器の型式承認

五月六日遞信省告示第二八七號を以て左記電氣計器の型式を承認されたり

型式第三十三號　計器名　三相交流「エレクトリシチー、メーター」LOC型

製造者名　獨國「アルゲマイネ、エレクトリチテーツ、ゲゼルシャフト」